

令和4年度住民協議会 会議録（要約）

日時 令和4年6月25日（土） 10時00分～11時35分

場所 清水町役場庁舎2階 庁議室

【出席者】

委員：大林敏郎、高橋雅典、松岡優徳、太田和雄、吉田宝生、藤田幸男
高田光、小笠原敏子、吉野文子
（欠席：友安伸、十川隆好）

事務局：企画課長（鈴木聡）、企画課長補佐兼企画統計係長（下保朋子）
企画統計係主査（青砥大将）、企画統計係主事（木村翔）、
企画統計係主事（小森那津未）

1. 開会

2. 町長あいさつ

清水町住民協議会の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

まず、清水ミライ自分ごと化会議に引き続き、今回の住民協議会にご参加をいただきまして、ありがとうございます。令和3年度からスタートしております総合計画は1年を経過しましたが、皆さんから自分ごと化会議のなかで貴重な意見をいただき、皆さんとともに作り上げた総合計画でございます。今後も策定に携わった皆さんとともに評価や修正を検討していく方法が一番良いのではないかという思いから、改めて住民協議会への参加をいただいたところです。

総合計画は1年を経過したため、いろんな意見をいただきながら、定めた方向性に向かって進めていければということでございます。

コロナも大分落ち着いてきたため、ポストコロナをしっかりと意識して、ギアチェンジをしてスタートしていきたいと思っているため、これからどんどん新たなことを進めていくつもりですので、皆さんにご理解をいただきながら、また本日はいろんなご意見をいただいて進めていきたいので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

3. 委員紹介

4. 事務局紹介

5. 議題（事務局より資料説明、グループワーク）

「清水ミライ自分ごと化会議」からの20の提案に係る取組状況について

①グループ

（委員）

総合計画に基づき各計画が見直されていると思うが、それぞれの会議に出席しているわけではないため、経過がわからない。住民協議会では今回の資料や新聞などから情報を把握して、評価するしかない。子どもの発達支援を例にすると、どれだけ相談が増えたのか、どのように対応しているかなど実際の数値がなければ評価しづらい。わかりやすく評価できる資料はないかと感じている。今後また総合計画の見直しをする際にこれまでと何も変わってなかったということにならないようにしてほしい。

（事務局）

評価するための資料が必要となる。現在、決算の成果をとりまとめているが、決算成果の作成においても工夫をしなければならぬと実感している。自己評価できていない部分もあるため、周知していきたい。皆様にお示しする資料についても工夫をしていかなければならないと思っている。

総合計画の前期計画は5年間となっているため、令和8年以降の後期計画を今後作らなければならないため、それに向けた前期計画の評価も必要となるため、準備を進めていきたい。今回初めての住民協議会ということもあり、手探りで資料を作らせていただいた部分もあるため、今後は充実させていきたいと思っている。

（委員）

資料を読んだときに、これまで自分ごと化会議で話をしてきたことが、何がどう行われているのか見えてこない。新規就農者が0となっているが、農業に携わりたいという希望はたくさんあると思う。就農する場所があるかどうか。土地がなければ新規就農はできない。受入れ体制ができていないのではないか。それに対してどう対応しているのか。住民協議会の参加者が段々と減っていったのは、自分の意見が反映されていないと感じたからではないか。新聞を読んでいると、他の町に比べて清水町の記事が少ない。清水町がアピールするものがないのか、情報発信がうまくいっていないのか。町民は町が何をやっているのか、自分ごととして感じられない。

（事務局）

以前からアピールの弱さについて言われている。現在取り組んでいることは、

商工観光課で移住促進協議会を立ち上げ、移住の相談等を協議会でやっている。新規就農については、農家の規模拡大意欲が強く、就農できる場所がないというのが現状である。地域の理解を得ながら進めていく必要がある。今後報道発表となるが、民泊を積極的に取り組むことを考えている。世界的な民泊サイトと協定を結び、移住体験住宅の利用を広く募っていく。また町長の家も民泊できるように登録する予定でいる。将来的には職員の家でも民泊できるような体制を整えるよう調整を進めている。いかに清水町をアピールしていけるか取り組んでいきたいと思う。

(委員)

町長の家にも民泊できるのか。

(事務局)

町長の家も登録する予定でいる。昔は宿泊法や消防法の関係で取り組むことが難しかったが、現在はかなり緩和されてきており、家主居住型であれば、簡単に民泊に取り組めるようになった。清水町は宿泊場所が少ないということもあり、民泊を進めていきたい。

(委員)

清水町は移住を希望する人に対して、アピールするところが少ないと感じる。移住のターゲットをどのように考えているか。全国からの移住者をターゲットとしているのであれば、アピールが弱い。近隣市町村からの移住をターゲットにすることで、移住者が増えるのではないかと思う。

(事務局)

帯広で勤務している人が御影地域に住むという人が多いと思う。ただ、十勝のなかで人口の取り合いとなることに対して、どう考えるかということもあるが、まずは清水町に住んでもらうということを考えなければならないと思う。

(委員)

清水町のお店は日曜日にお店が閉まっているところが多い。もっと清水町で買い物ができるよう、利便性を高めてほしい。例えば藤丸のサテライトショップや帯広にないお店を清水町に持ってくることで、他の町からも人を呼べると思う。

(事務局)

シャッター街が多くなっており、これから取り組みが必要であると感じている。

商工観光課でも空き店舗対策に取り組んでいる状況である。

(委員)

例えばコストコのものが買えるとかも良いのではないか。

十勝管内の農家は離農しても、その場に住むことが多い。根釧地域は離農後、市街地に住むことが多い。元の住民が住んでいる場所に新規就農はしづらいと思う。

(事務局)

清水町や芽室町、士幌町などは土地を手放さないという希望が強いという印象がある。住み慣れたところを離れたくないということと土地を財産として考えている人が多いと感じている。これから新規就農を受け入れていくのであれば、地域の理解を得られなければ、進まないと思っている。農業に興味を持っている人は多いため、需要と供給が合うようになっていけば良いと思う。

(委員)

農業に関連する職業は人が不足していると思う。検定員や人口受精士など新規就農は難しくても、農業関連の職業を紹介することも良いと思う。

(事務局)

重要な仕事であるため、PRは必要かもしれない。

(委員)

住民協議会は住民同士グループで話し合うものだと思っていた。委員と職員との1対1の話しかないため、話しづらい。

(事務局)

座席の関係もあり、申し訳ない。住民同士で話し合いをしてもらうことも目的として考えているため、そのように進めていきたい。

(委員)

清水町は他の町と比べて、夜の町が暗く感じる。シャッター街が多いことや商店街に住宅が建つようになってきている。何か良い方法がないかと思っている。

清水町の家賃は高い。町で安くできるように考えてもらいたい。それが移住にもつながるのではないか。町営住宅もあるが、老朽化している。他の町は段々と新しくなっていており、なぜ清水町は遅れているのか。

(委員)

御影の単身者住宅は良いと思っている。

(事務局)

住宅事情はなかなか満たされない状況である。

(委員)

いろいろ町村で移住者の受入れを行っており、清水町もいろんな人に移住をしてほしいという思いを持っていると思うが、受け入れる町民の気持ちはどうなのかと思う部分がある。移住してきた人が寂しい思いをしているのではないかと思うことがある。

(委員)

北海道全体はウェルカムなイメージがあるが、十勝は保守的に感じる。清水町は山や高速のIC、JRなどがあり、便利な町であると思う。移住する上でまず考えることは仕事だと思う。自分は清水町で会社をやっているため、都会の会社が何をやっているか、どのように仕事をしているのか聞いてみたいという思いがある。都会で働いていた人たちを積極的に誘ってはどうか。

(委員)

清水町役場のロビーにある求人はハローワークに掲載しているか。

(事務局)

商工会で取りまとめをしているものを掲示しているが、ハローワークにも掲載していると思う。

(委員)

ハローワークであれば、全国で掲載されるため、求人について情報を得られると思う。

以前、神奈川県小平市に住んでいた。東京から電車で1時間くらいであり、衛生都市である。東京へ通勤する人にとって良い住宅地であり、近年も人口が増えている。帯広へ通勤する人にとって、清水町は良い場所であるが、老朽化して誰も住んでいない町営住宅が多くあり、環境もイメージも良くない。なんとか建て直して、人を呼び込むための施設を作ってはどうか。

ただの清水では印象が薄いため、十勝清水と書いてある場合が多いが、名称変

更はしていない。

(事務局)

よく静岡県の清水町と間違われることが多い。知名度にまだ差がある。

(委員)

アピールの仕方だけでなく、ガラッと変えても良いのではないか。役場がどのように考えているか。

移住したあとのフォローはどう考えているか。移住したあとに順調にいかない部分も出てくると思う。就農であれば農協も絡んでくると思うが、町と農協の関係性も含めて、どう考えているか。アスパラ祭や肉どんぶり祭など農協と一緒にやっていないという話も聞くが、仲が悪いと感じる。農業に関することをなぜ一緒に盛り上げようとしてやっていないのか。にんにくの商品もアピールはされていない。にんにくの町と言いながら、にんにくの町ではない。

(事務局)

農協と仲が悪いわけではない。連携をとりながら進めているが、きちんと伝わっていない部分はあるかもしれない。先日実施している牛乳消費拡大なども一緒にやっている。アスパラ祭は農業が主催、肉どんぶり祭は町が主催で農協は事業者としての参加者という位置づけでやっていた。お祭りをそれぞれの主催でやっているため、そういう風に見えるかもしれない。

(委員)

なぜそのようになったのか。

(事務局)

経緯は詳しくわからないが、おそらく資金面や農協のスタンスが絡んでいるのではないかと思う。農協が一括して物を売っているわけではないため、農協以外の事業者との付き合いもあり、なかなか一つになれないときもあったと聞いたことがある。

(委員)

にんにく工場を農協でやっているが、販売は行っていない。一般の人が除外されているイメージがあり、にんにくの町ということを町民全体が共有できていない。町民との関わりを持っていないイメージが清水町にはある。

(委員)

清水町が移住者に対してウェルカムとは感じないが、拒む感じもない。移住を決めたのは札幌や釧路などへの交通アクセスの良さが決め手となった。また、食べ物もおいしい。住むには家賃が高いと感じるが、光回線も町全体に入り、利便性は高まっていると感じる。

役場が何かをすることは担当も変わり、長続きしないため、反対である。前に住んでいた大樹町では役場職員から役場は助成や支援はできるが、住民主体で行わなければ長続きしないと言われた。大樹町にいたときにはコンサートを行うなど自分たちでやるのは面白いと感じたが、清水町に来てからはそのような機会がまだない。

日曜日に清水で買い物ができないというのは寂しいと感じる。しかし、大きな店にはかなわないとも思う。いちまるが近くにあるということから、家を決めたが、いちまるがなくなってしまった。大手が入り、地元のお店がなくなり、大手が撤退するという話は最近よく聞く話である。

(委員)

いちまるは町でどうにかできなかつたか。家賃が高かったと聞いており、利益がなければ撤退するのは当然である。近い将来パチンコ店などもなくなるのではないかと思う。日甜も町のことを考えてほしいと思った。

(事務局)

撤退が決まってから、町に連絡があった。町としても日甜にもう少し考えてほしかったとは思う。建物が広く一体であるため、借りる事業者は出てこないのではないかと思う。

(委員)

スーパーが一軒しかないということは、町民が一番困ることである。人口が1万人を切り、どんどん過疎が進んでいる。

(事務局)

商店街が減り、後継者がいないなど経済的なものも絡んでくる。

(委員)

清水町の将来を考えると、移住者を受け入れていかなければならない。人口が増えていく要素はない。

(委員)

後継者が息子や親せきに限らず、やりたい人が仕事を引き継げるようにならないか。やりたい意欲のある人を引っ張れる体制ができれば良いと思う。

(委員)

辞める店が出てきたときに、その店の後継者を町で募集してはどうか。農業にクローズアップするだけでなく、お店の後継者を探しても良いかもしれない。

インターネットで清水町を検索すると、静岡県清水町が出てくるため、それを逆手にとって、静岡県の清水町に移住者を募集してみてもどうか。

(事務局)

以前は姉妹町として提携を結んでいたため、昔の縁でやってみるのも良いかもしれない。

②グループ

(事務局)

日頃思っていることを話してもらいたい。20の提案の取り組みについて、日常生活で気になること、清水町で不足していることなどあれば意見交換させてもらって、今後のまちづくりをしていきたい。

(委員)

色々話したことをやってくれているので、悪いイメージはあまりない。子育て世帯の意見として、清水公園の遊具の塗装がはがれているなど、危ないところが多い。中央公園や御影の新しいところはきれいだが、利用者が1番多い清水公園の遊具の改修をしてほしい。

キャンプやドックランに力を入れていて子どもたちも集まってくるのにもったいない。花壇の整備がされていなかったり、ごみが落ちているので、小さいところの環境整備からしてほしい。ボートも新しいものが増えたが、ボートよりも公園の整備が先だと思う。

(事務局)

清水公園は全体的な構想を将来的に考えていると思うので、全体的なリニューアルの時に大幅変更になるのではないかと考えている。塗装がはがれているなどの意見に関しては担当課に伝える。

(委員)

買い物銀行バスの利用について、「どこへ頼んだらいいかわからない・清水に来ても行きにくい」という意見を聞くことがある。御影で買い物に困っている人がいる。買い物銀行バスを利用している人も買物を急いでしなければならないという意見も聞く。買い物バスが待っていることも多く気遣わしい。

(委員)

いちまると食彩館がなくなってコープのバスが毎週火曜日金曜日に町内集会場に来ている。スーパーが福原しかなく、買物が大変だという意見もいただいているので、将来的に高齢者の方の買い物については考えていかなければならないと考えている

(委員)

コープのバスの情報周知はどうやっているのか

(事務局)

新聞折込のみいれている。毎週周知していることはなく、現在は HP のみ。

(委員)

毎週やっているということをもっと周知できれば利用する人も増えるし、買い物とかもしやすくなると思う。

(事務局)

コロナの関係で 2 人ずつしか入れないなど、待ち時間等の問題がある。もう少し時間があれば、いいのかなと思う。

(委員)

御影地域は、最後にコープのバスがくるので、売り切れて商品がないということが多い。

ほしいものが確定している場合は事前に注文してくださいと言われている。

(委員)

農業の労働力不足が深刻。現在雇っている人以上に入ってこない、すぐやめていく人も多い。ヘルパー内でも情報交換しているので、少しでも条件のいい牧場や町村に流れていってしまう。現在 4 人を雇っているがそれ以上入ってこない。そのかわり畜大生を安く雇っている現状。新規就農者は学校卒業してすぐに就農するわけではなく、違う民間の企業を経験などして 5 年 10 年後に帰ってくるパタ

ーンが増えている。

(委員)

外国人労働者はコロナが収まったらまた受け入れが増える予定なのか。

(事務局)

今よりは増えるとは思いますが、実際に来てくれるかどうかはわからない。

(委員)

離農した土地があれば、そこに入りたいという人もいる。土地がないので、始めるのは大変。新規就農を行うのは、機械や土地の確保など大変なので支援してもらえればよいと思う。ただし、今ある制度の支援金（補助金）でも全然足りないというのが現状。

(委員)

どこの町村も同じ課題をかかえているなと思った。身近な情報発信というところで、ドッグランの関係で広報等でも情報発信してないので、ドッグランを設置した目的がわからない。河川敷のあたりも工事をしているが、何のためにどんな目的でやっているのかが見えないし、わかっている人が少ないと思う。詳細まではいらないが、身近な情報をもっと流してもらったほうが嬉しい。

バイオマス促進事業について、設置するときどういう方向性にするのか話し合っていると思うが、今後の展望がみえない。清水町の酪農家が多い特性を活かして、鹿追町などの成功している町村などをまねしてエネルギー問題の解決に繋げていけたらいいと思う。

アイスホッケーの関係で、町内の学生や十勝の学生が清水町でどれだけアイスホッケーをやっているのか現状がわからない。移住までして、アイスホッケーをやっている人もいるのを知っているが、実際の現状がよくわからない。

(委員)

清水町の強みとしてアイスホッケーがあるのに、全ての子どもたちがアイスホッケーを体験できるようなものがない。体験してみませんかという案内がきて、申し込んだら体験できるが無条件にできる機会がない。強みとして押していくなら、町民がアイスホッケーを体験しないと意味がないと思う。

(委員)

授業の中で、触れさせるなどやり方はいろいろある。体験すればもっと身近な

ものになるし、やったことあると体験談を話すこともできる。

(委員)

経費がかかるなら、長靴とかでもいいので、スティックをもって年1回でも経験させるといいと思う。

小学校とかリンクを作っているので、スケートだけでなくアイスホッケーもさせてみるのもよい。

(事務局)

保育所は、長靴とかでアイスアリーナにいったスティックもどきをもって遊んだりしている。

(委員)

保育所だけではなく、小学校でもそれをやったほうがいいなと思う。

アリーナも御影にあるけど、行く機会がなかなかない。氷上祭りも毎年同じ顔触れになってしまっていると聞くので、リンクに触れる機会を増やすためにはなおさら学校が授業としてやってくれたらいい。

まずは子供が興味を持つ機会をつくるのが大切だと思う。

(事務局)

アイスホッケー関係で移住してくる方も多し。社会教育課の地域おこし協力隊も子どもがアイスホッケーをやっているとその繋がりもあり移住している。

(委員)

第九のまちやアイスホッケーのまちとして情報は出ているが、だからといって町民がやっているかといわれればそうではない。第九はみんな歌えるけど、ホッケーはなかなか難しいと思う。

(事務)

昔よりいろんなスポーツが増えてアイスホッケー人口が減少しているのは事実だが、アイスホッケーに触れさせる機会を作るのが必要かと思う。

(委員)

観光協会のHPアクセスは増えているのか。

高速道路も通過点になっており清水町で降りてくれないというのが言われているが、コロナでイベントもなくこのままだと今まで以上に素通りされてしまう。

これから途中で十勝清水に降りてもらえるような工夫が必要。札幌から釧路に行く場合、途中で降りて高速料金が上がるようなら何か安くなるような工夫をして降りやすくして清水町に足を運んでもらいたい。

(委員)

御影のとんかつのみしなは札幌ナンバーが結構いる。

(委員)

清水町で食べるといったらどこで食べるか。ラーメン、国道の目分料、韋駄天、ゆめあとむなどがある。がつつり食べたいとなるとみしなに行ってしまう。

(委員)

町内のお菓子屋さんが少ないと感じる。御影にいるとなおさら芽室とか帯広に買いに行ってしまう。

(委員)

清水町は食をアピールしたほうが、人が集まると思う。例えば、清水町をまわってみしなでご飯食べたら、そのまままっすぐ十勝温泉（音更）への観光ルートを考案することもできる。十勝川まで一本道だから迷子にもなりにくい。

(委員)

明確におすすめ観光ルートを作成しておく、町内を回りやすい。事業者の応援にもなる。

新規で開業した人などをサポートすると、もっと開業してくれる人が増えてくるかもしれない。

清水町はソフトクリーム・アイスを出しているところも結構あるので、ソフト・アイスルートもいいかもしれない。

6. その他（今後の住民協議会の進め方について）

特に意見なし。

7. 閉会